

はじめに

平成29年3月、文部科学省から幼稚園教育要領が告示され、平成30年4月には施行となります。総則では、「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。」とあります。また、今回の改訂で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10項目示され、その一番目に取り上げられたのが、「健康な心と体」です。内容としては、「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。」、「進んで戸外で遊ぶ。」、「様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。」があげられています。

今回の改訂で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やその内容は、平成29年3月、厚生労働省から告示された保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂にも同様に示されています。

平成22年からスタートした「こころからだはずむ 柏っ子」をテーマとするこの共同研究は、まさしくこの項目に関わる内容であり、これからも重要であると考えられます。

研究内容としては、運動能力測定や家庭生活調査を基にした柏市と全国平均の比較による課題解決に加え、昨年度作成した「柏市運動遊び分析シート」を活用し、各園で日常の遊びの中にある様々な動きの要素を分析しています。それを受け、不足している動きはないか、不足を補うにはどのような遊びを取り入れていく必要があるのか等課題への具体策を考え、カリキュラムの見直しや環境設定の改善を図っています。

幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことは、様々な活動への意欲や社会性、創造性を育むことにつながり、豊かな人生を送るための基盤づくりとなります。その年によって幼児の実態は違います。実態に応じた運動遊びが充実したものとなるよう期待しています。

さらに、家庭生活と運動能力発達の比較結果や考察を家庭への啓発につなげていくことも大切だと考えます。園の活動へのご理解をいただくと共に、家庭にもご協力いただきたいことを明確にしていくことで、共に幼児の健やかな成長を願い、体を動かす遊びを中心とした身体活動を幼児の生活全体の中で確保していくことの重要性を示していくきっかけになると考えます。

この共同研究の取組の成果が、柏市の子どもたちの笑顔と健やかな成長につながっていくことを願っています。

最後になりましたが、長年にわたりご指導いただいております聖徳大学大学院教職研修科 教授 太田繁先生をはじめ、ご協力いただきました市内の幼稚園、保育園、認定こども園の皆様、並びに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

柏市立教育研究所 所長 池田 一 美